

播磨科学公園都市のあり方検討 まちづくりチーム 第3回 記録

■開催概要

- ・ 日 時：2026年7月28日（火） 18:00-19:30
- ・ 場 所：光都プラザ コミュニティスペース cotohana（コトハナ）
- ・ 参加者：コーディネーター/有識者（2人）
地域住民（10人）
行政職員（9人）
傍聴者（2人）
- ・ プログラム内容：
 1. 開会
 2. ワークショップ（意見交換）
 3. 意見の共有
 4. 閉会

■意見交換のテーマについて（コーディネーターより）

- ・ まちづくりチームは、住民・専門家・行政が同じ立場で、テクノの将来について対話し、目指すまちの姿を一緒に描いていくプロジェクトチームである。
- ・ 第1回、第2回では、「できるか、できないか」また「いつ実現できるか」といったことにとらわれず、これからのテクノのまちづくりに必要な要素について、幅広く意見を出していただいた。また、これまで地域で行われてきた取組や、地域の皆さんから寄せられた意見も踏まえ、不足している視点を補いながら議論を重ねてきた。その結果、まちづくりに必要なテーマや方向性が、少しずつ見えてきたと考えている。
- ・ 第3回は、これまでの意見を事務局で整理した内容をもとに、まちづくりに必要な取組を、より具体的に考える回である。すぐに取り組めることは議論と並行して実践していく一方で、中長期的な取組については、実現に向けて何が必要かを今後一緒に考えていけるとよい。第3回では、その第一歩として、各テーマについて、どのような取組が考えられるかを議論していただきたい。
- ・ 議論に当たって、まちづくりチームの皆さんは、同じ目標に向かって協働する仲間であることを改めて共有したい。特定の個人や組織を非難するのではなく、「どうすればより良くなるか」という視点で意見を出していただきたい。
- ・ テクノのまちづくりは、まちづくりチームだけで完結するものではなく、住民の視点で議論するまちづくりチーム、専門的な検討を行うイノベーションチーム、制度や基盤整備を検討する都市フレームチームが連携しながら進めていく。そのため、住民として取り組めることに加え、専門家や行政に検討してほしいことについても、ぜひ意見を出していただきたい。

■イノベーションチームの状況報告（事務局より）

- ・令和8年6月18日に第1回作業部会を開催し、テクノにおけるイノベーションのあり方や、今後の検討項目について議論した。
- ・主な意見として、SPring-8などの研究施設について、地域住民にも分かりやすく伝える機会や仕組みが必要との意見があった。
- ・また、研究施設だけでなく、企業・大学・学校・住民が連携し、地域全体で実証や取組に関わることが、地域の活性化につながるとの意見もあった。
- ・有識者からは、住民がワクワクしながらまちづくりに関わることや、研究開発だけでなく、暮らしや地域課題を起点としたイノベーションも重要との意見があった。
- ・本日の議論でも、こうした視点を踏まえて意見をいただきたい。

■都市フレームチームの状況報告（事務局より）

- ・都市フレームチームでは、現在、行政を中心に、建物や公共施設、インフラなどの現状確認、関係する制度や整備・運営主体などについて整理を進めている。まずは行政間で論点や基礎データを確認し、その後、有識者を交えて専門的な検討を進める予定である。
- ・また、まちづくりチームやイノベーションチームで出された意見についても共有し、都市フレームの観点から検討すべき内容を整理していく。

■ワークショップ（意見交換）の記録

- ・前回（第2回）から引き続いて、3班（当日参加の住民含む）に分かれて意見交換を行い、検討項目について、短期・長期に分けて意見交換を行った。冒頭で全体に対して他チームでの検討状況を報告した後、各班で自己紹介を行い、各自が付箋1～2枚に意見を記入し、貼り出しながら共有した。その後、班員同士で全体を俯瞰して不足している視点を確認し合い、追加意見を共有した。最後に話し合った内容を全体に向けて発表し合った。

【1班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見（赤字：短期、青字：長期）
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	・配達、ドローン？ ・サッカー場へヘリは降りれる？ ・本当に安心できるか、薬とか ・これで完結でない ・向き不向き ・処方箋対応のドラッグストア ・リハビリテーション病院での診療、予約制ではあるが「可」。すでに始まっている ・医療計画の問題？ ・皆で取り組もうという仕組み
	買い物	・移動販売（4区はコープきてる） ・店と宅配は別なので
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	・避難場所となっている小中学校にエアコンの取り付け ・都市フレームへ ・普段は普通、災害時はみたいな
	防犯	・ふれあい喫茶はやっている ・すでに取組済み、100才体操、3、4期ではやっていない ・自治会のたつの市のクリーン作戦 ・1台30万程度、警察協議必要 ・長期かもしれないがはやくしてほしい（防犯カメラ） ・播磨道無料化（鳥取道無料区間のように）
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	・播磨道、はりま新宮 IC, ETC2.0（2h 初乗りなし） ・モデル事業として立候補
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	・鹿対策 ・街灯が少ない ・プロジェクトマッピング ・自然の中でサウナ施設、リフレッシュ、スポーツ施設と連携 ・オートキャンプ場
	多様な世代への配慮	・強度高度障害の施設はどうなったのか ・一工区で登録して合意すれば ・たすけタッチ ・強度高度障害施設は難しくなった
●働く場・環境の確保	働く場	・県立大生が働く場（姫路やたつのに住み、車で通学している）、まず暮らしたくなる空間、れいめいりょう空き ・水素エネルギー産業、例えば川崎重工 ・研究を商品化、企業誘致するならそういうのが必要

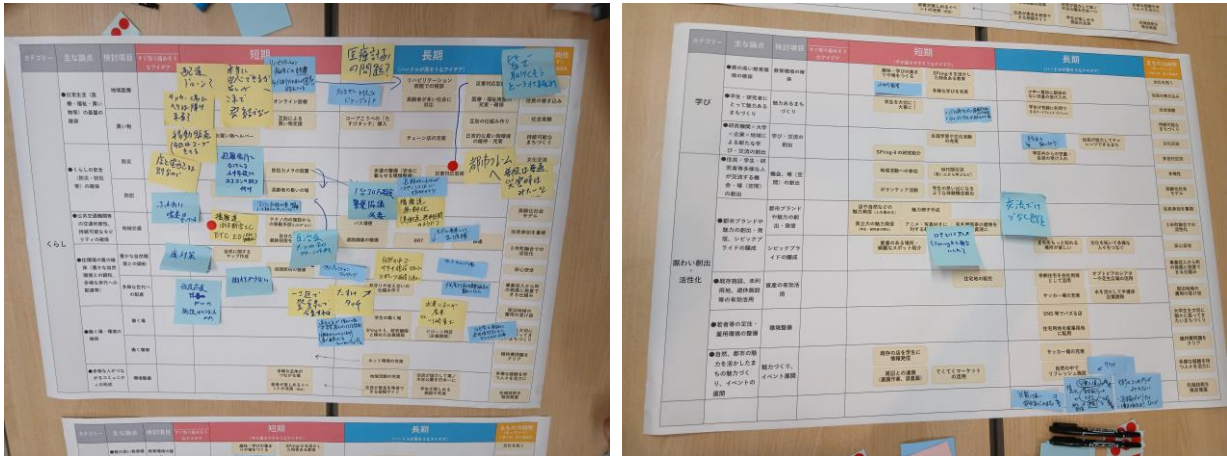
	働く環境	—
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	—
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	・山村留学
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	・バス停そばに居場所ある、Wi-Fi あるか不明 ・ライブハウスがあるといい
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	・工区を取っ払う
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場（空間）の創出	機会、場（空間）の創出	—
●都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成	都市ブランドや魅力の創出・発信 シビックプライドの醸成	・ロナというアニメ（SPRING-8 を舞台にした） ・交流だけでなく定住
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	—
●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	—
●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	・サウナ ・災害に強い安心安全のまち、コンセプト ・災害に強い安心安全のまち→住まい、文化発信、核、企業誘致、病院、 ・街のコンセプトがみえない ・各論ばかりではないか ・優先順位は？

<特記事項・コメント>

- ・「安心・安全」を光都の大きな強みとして位置付け、それをまちづくりの核にしていくべきではないか。各論ではなくコンセプトに沿って優先順位を付けて議論すべきなのではないか。そのためには、災害対応が可能な病院や、防災・交通インフラなど、安全・安心を支える基盤の充実が重要である。
- ・人と人とのつながりも欠かせないことから、気軽に集まり交流できるスペースや、体操やイベントなどを通じて交流できる場が必要ではないか。
- ・人が住み続けるためには、働く場や教育環境も重要であることから、企業誘致や学校機能の充実、人を呼び込む取組も必要ではないか。
- ・あわせて、買い物など日常生活の利便性を確保し、安心して住み続けられる環境づくりが重要。

- ・交通については、高速道路やインターチェンジが近いという立地をもっと活用すべき。短期的にはETC2.0などを活用した利便性向上、長期的には播磨自動車道の利用しやすい仕組みづくりなどにより、人の往来やにぎわいにつながるのではないかな。

<当日の意見>



【2班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見（赤字：短期、青字：長期）
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	—
	買い物	—
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	・企業をまきこんだまちづくり
	防犯	・防犯カメラの整備 ・住民とのコミュニケーション（安心な街として）
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	・交通路線の拡充（住環境問題） ※バス路線の拡充を拒む声が地域内にあるため、その対応を行う必要がある。
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	—
	多様な世代への配慮	・シニアの経験資産を若者へ（シニアと若者のつながり） ・福祉関係の受入 ・不登校のこども受け入れる ・グランドゴルフをゴルフ場でやる、全国大会の実施
●働く場・環境の確保	働く場	・空きテナントで動画編集できる場をつくる
	働く環境	・情報通信、インフラの改善 ・安藤忠雄似のバスガイドツアー、建築物めぐりの実施？ ・安藤忠雄のファンにクラファンで維持管理してもらう
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	—
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	—
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	・文化の継承
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	—
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場（空間）の創出	機会、場（空間）の創出	—
●都市ブランドや魅力の創出・発信	都市ブランドや魅力の創出・発信	・大学生へまちを発信してもらう（動画作成など）

信、シビックプライドの醸成		・四コママンガ ・放送局設営 ・テクノを宣伝しよう（アニメとか） ・テクノ新聞をつくる ・（記載位置の移動）SNS 等でバズる店 ・（記載位置の移動）既存の店を大学生に情報発信
	シビックプライドの醸成	－
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	・4期住宅を売らないで、5期住宅を売れない？どこでも選べるようにしたい
●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	－
●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	－
●その他の意見		
・テクノは地盤が固いため災害に強い。これらの環境はテクノの売りとして、企業誘致を行う際にもプラスに働く可能性がある。 ・「多様な世代への配慮」について、配慮すべき点は世代だけではなく、“人々”である。よって、記載は「多様な人々への配慮」と改めるべき。 ・「多様な人がつながるコミュニティの形成」の「環境整備」と「若者等の定住・雇用環境の整備」の「環境整備」について、主な論点が被っている（若者等、くらし、環境整備、コミュニティ環境整備など）可能性があるため精査すべき。		

<特記事項・コメント>

- ・テクノの強みを生かしたまちづくりを行っていく必要がある。
- ・安心・安全なまちを強化するため、住民同士が気軽に交流できる場をつくり、日頃から顔の見える関係を築くことが大切ではないか。また、防犯カメラの設置や適切な維持管理など、防犯対策の充実も必要と考えている。
- ・広報誌や新聞、SNS などさまざまな媒体を活用し、若者だけでなく幅広い世代が情報発信に関われる仕組みが必要ではないか。また、SPRING-8 を題材としたアニメなども活用しながら、科学や学びのまちとしての魅力を積極的に発信していくことも重要である。
- ・高齢者は知的資産を持っているため、常に「支えられる側」ではなく、高齢者が経験や知識を生かして地域で活躍できる存在として、まちづくりに参加できる仕組みが必要ではないか。

<当日の意見>

カテゴリ	主な観点	検討項目	短期	長期	その他の観点
学び	●学習の意欲、モチベーションの向上	学習意欲	オンライン学習	学習意欲の向上	学習意欲の向上
	●知識の習得、理解	知識の習得	知識の習得	知識の習得	知識の習得
	●スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得
	●態度の育成	態度の育成	態度の育成	態度の育成	態度の育成
くらし	●生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成
	●社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成
	●健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上
	●環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上
健康・福祉	●身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上
	●精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上
	●生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消
	●社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進

カテゴリ	主な観点	検討項目	短期	長期	その他の観点
学び	●学習の意欲、モチベーションの向上	学習意欲	オンライン学習	学習意欲の向上	学習意欲の向上
	●知識の習得、理解	知識の習得	知識の習得	知識の習得	知識の習得
	●スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得	スキルの習得
	●態度の育成	態度の育成	態度の育成	態度の育成	態度の育成
くらし	●生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成	生活習慣の形成
	●社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成	社会性の育成
	●健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上	健康意識の向上
	●環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上	環境意識の向上
健康・福祉	●身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上	身体健康の向上
	●精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上	精神健康の向上
	●生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消	生活困窮の解消
	●社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進	社会参加の促進

【3班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見（赤字：短期、青字：長期）
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	—
	買い物	—
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	—
	防犯	—
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	—
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	—
	多様な世代への配慮	—
●働く場・環境の確保	働く場	—
	働く環境	—
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	—
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	—
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	—
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	・Spring-8の紹介→マンガにしてわかりやすく一般公開→イノベT ・フロンティア祭でテクノのまちの魅力を住民にスポット出してもらう ・アニメ、マンガで分かりやすくまちを若い人に知ってもらうPR ・科学のイベントではなくアニメ聖地イベントの方が来る？ ・テクノにあるものを見直してできるもの、コトを探す ・アニメ聖地→活かした製品開発とか ・アニメ、今ある資源つかってPRとか？ ・はりまSAKURA（SAKURAできたときのアニメ） ・淡路島のニジゲンノモリ、タグをまわったらポイントもらえとか、スタンプラリー ・テクノだけでなく県全体で建物めぐりとか ・今我々がわかっていない、コレクションスタンプラリーを掘り起こす ・LONA（アニメ）のPR

		・有名建築も魅力ある→映えスポットとか ・夕焼け
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場(空間)の創出	機会、場(空間)の創出	—
●都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成	都市ブランドや魅力の創出・発信	—
	シビックプライドの醸成	—
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	—
●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	—
●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	—
●その他の意見		
・テキストマイニング、どれが多数の意見か		

<特記事項・コメント>

- ・これまでの意見整理について、元の意見と整理後のキーワードとの対応関係や、同じ意見がどの程度あるのか、などが分かるように整理してほしい。AI やテキストマイニングの活用も検討しつつ、多数意見だけでなく、少数でも将来性や独自性のある意見も適切に反映できるとよい。
- ・SPring-8 が『攻殻機動隊』の作中に登場することを生かし、アニメと連携した情報発信をしてはどうか(作中では、神経素子(ニューロチップ)が誕生した場所であり、AI によって自律行動する多脚思考戦車「タチコマ」の故郷として描かれている)。その他、『未来光子 播磨サクラ』『LONA』といったテクノを舞台にしたアニメもある。そのような魅力を活かし、漫画やアニメ、パネル展示等を通じて SPring-8 の研究内容を分かりやすく紹介するとともに、イベント観光PR、関連商品、ふるさと納税等へ展開し、地域外からの来訪や話題づくりにつなげてはどうか。
- ・地域住民や学生にも地域の魅力が十分に知られていないため、新たな施設整備よりも、まずは既存資源を整理・発信することが重要。テクノには著名な建築家が設計した建築物や特徴的な研究施設、景観、夕景、星空など魅力的な地域資源が数多くあることから、その価値を整理し、建築やデザインに関心のある人も含めて幅広く発信してはどうか。魅力を広く知ってもらうための取組としては、建築物や研究施設、景観スポットなどを巡るスタンプラリーなどが考えられる。スタンプラリーについて、紙媒体だけでなく、位置情報やデジタルスタンプを活用することで、こどもから大人まで楽しみながら地域を周遊できる仕組みとしてはどうか。また、地域全体をゲームのフィールドに見立て、複数のチェックポイントを巡ることで物語やミッションが進行する企画も考えられる。まずはフロンティア祭などの場を活用し、住民や学生から地

・それらの情報発信を通じて地域外から人を呼び込み、来訪者が地域内を周遊し、飲食・買い物・体験等を楽しむ流れまで含めて検討できるとよい。例えば、スタンプラリー等のこども向けイベントに同行する保護者などが利用できる飲食店や、気軽に滞在できるカフェ等があることで、地域内での滞在や消費のきっかけにつながると考えられる。そのような小さなきっかけや、分かりやすい情報発信を積み重ねることで、地域への継続的な来訪や将来的な関係人口の創出につながれるとよい。

[illegible]

■コーディネーターからのコメント

- ・共通するテーマとして、「安心・安全なまちづくり」が挙げられた。災害対応が可能な病院や防災・防犯対策の充実に加え、人と人とのつながりを強めることが、安心して暮らせるまちにつながるとの意見が多く見られた。
- ・働く場や学ぶ場の充実、地域外から人を呼び込む仕組みづくりの必要性や、光都の強みやブランドを積極的に発信していくことの重要性についても、多くの意見があった。
- ・魅力発信では、『攻殻機動隊』等のアニメや著名建築を活用した情報発信、SPRING-8 など研究施設の魅力を分かりやすく伝える取組など、具体的な提案もいただいた。
- ・これまでの意見を整理する際には、意見の傾向や多寡が分かるような見せ方を工夫してほしいという事務局への要望もあった。本日いただいた意見については、今後も記録・整理し、次回以降の議論につなげていく。次回以降は、今回整理したテーマをさらに掘り下げ、具体的な検討を進めていく予定である。
- ・本日の議論を通じて重要だと感じたのは、「目指す将来像から現在を考える視点（バックキャスティング）」と、「今できることを積み重ねながら将来につなげる視点（フォアキャスティング）」の両方を行き来する「フライキャスティング」型で議論を進めることである。議論を深めるためには、必要な知識を学びながら意見を整理し、段階的に具体化していくことも重要である。
- ・合意形成では、多くの人が賛同する意見だけでなく、少数意見の中に新しい発想やイノベーションの種が含まれている場合もある。そのため、多数・少数にかかわらず幅広い意見を大切にしながら議論を進めていきたい。次回以降も、こうした考え方を共有しながら、テクノの将来像について検討を深めていきたい。

■コーディネーターからのコメント

- ・前回よりも議論が具体的になり、回を重ねるごとに議論の解像度が高まってきたと感じた。
- ・特に、「攻殻機動隊」などのアニメを活用した魅力発信は新しい視点であり、地域だけでなく国内外から人を呼び込む可能性のある興味深い提案であった。また、有名建築家による建築群についても、以前から地域の資源として認識されてきたことから、これまでの取組を振り返り、新たな活用方法を検討していく必要がある。
- ・一方で、人と人とのつながりや交流の場の必要性については、これまでも繰り返し議論されてきたテーマである。「何が必要か」だけでなく、「これまでなぜ十分に実現できなかったのか」という点も振り返りながら議論を深めることが重要である。今後は「何をするか」だけでなく、「誰が担うのか」という実施主体の視点も重要になってくる。
- ・議論は着実に具体化してきており、ここからさらに実現に向けた検討を深めていくことを期待したい。

【当日の様子】

